

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2014年度 中国高校生訪日団第2陣計99名が、12月9日から12月17日までの8泊9日の日程で来日しました。（団長＝賀東亮（ガ・トウリョウ）南京師範大学附属中学 副校長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は東京をはじめ、兵庫県、福岡県、大分県、大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、兵庫県・福岡県・大分県・大阪府に於ける学校交流やホームステイ等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

12月9日（火）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

12月10日（水）

環境保護に関する講義、国会議事堂視察、皇居二重橋見学、歓迎会

12月11日（木）

第1グループ：兵庫へ移動、カワサキワールド視察、和風旅館での日本文化体験

第2グループ：福岡へ移動、株式会社マルタイ視察、日本文化体験（博多人形絵付け）

第3グループ：大分へ移動、オムロン太陽株式会社視察、和風旅館での日本文化体験

12月12日（金）

第1グループ：学校交流（兵庫県立小野高校、兵庫県立加古川西高校）、ホームステイ（兵庫県立小野高校、兵庫県立加古川西高校、兵庫県立三木高校）

第2グループ：学校交流・ホームステイ（福岡県立香住丘高校、福岡県立玄界高校、福岡県立北筑高校）

第3グループ：大分県教育委員会表敬訪問、学校交流・ホームステイ（大分県立大分舞鶴高校、大分県立大分上野丘高校、大分県立大分豊府高校）

12月13日（土）

第1グループ・第3グループ：ホームステイ

第2グループ：ホームステイ、学校交流（福岡県立北筑高校）、和風旅館での日本文化体験

12月14日（日）

第1グループ：日本文化体験（和ろうそく）、宝塚市立手塚治虫記念館見学、大阪へ移動

第2グループ：太宰府天満宮見学、九州国立博物館見学、大阪へ移動

第3グループ：日本文化体験（竹細工）、別府地獄見学、大阪へ移動

12月15日（月）

第1グループ：学校交流（大阪府立門真なみはや高校）

第2グループ：四天王寺見学、大阪市立阿倍野防災センター視察、学校交流（大阪府立生野高校）

第3グループ：学校交流（大阪市立南高校）

12月16日（火）

大阪城見学、大阪ガス科学館視察、商業施設視察、歓送報告会

12月17日（水）

関西国際空港より帰国

3 写真



12月10日 環境保護に関する講義（東京都）



12月10日 皇居二重橋 見学（東京都）



12月10日 歓迎会
河上淳一 外務省アジア大洋州局アジア青少年交流室長の歓迎の挨拶（東京都）



12月11日 カワサキワールド 視察(兵庫県)



12月11日 株式会社マルタイ 視察
（福岡県）



12月11日 日本文化体験（博多人形絵付け）
（福岡県）



12月11日 オムロン太陽株式会社 視察
(大分県)



12月12日 兵庫県立小野高校 訪問・交流
(兵庫県)



12月12日
兵庫県立加古川西高校 訪問・交流 (兵庫県)



12月12日 福岡県立香住丘高校 訪問・交流
(福岡県)



12月12日 福岡県立玄界高校 訪問・交流
(福岡県)



12月12日 福岡県立北筑高校 訪問・交流
(福岡県)



12月12日 大分県教育委員会表敬訪問
賀東亮 団長と落合弘 大分県教育庁教育次長（大分県）



12月12日
大分県立大分舞鶴高校 訪問・交流（大分県）



12月12日 大分県立大分上野丘高校 訪問・交流（大分県）



12月12日
大分県立大分豊府高校 訪問・交流（大分県）



12月14日 日本文化体験（和ろうそく絵付け）（兵庫県）



12月14日 宝塚市立手塚治虫記念館 見学（兵庫県）



12月14日 太宰府天満宮 見学（福岡県）



12月14日 九州国立博物館 見学（福岡県）



12月14日 別府地獄 見学（大分県）



12月14日 日本文化体験（竹細工）（大分県）



12月15日 大阪府立門真なみはや高校 訪問・交流（大阪府）



12月15日
大阪府立生野高校 訪問・交流（大阪府）



12月15日
大阪市立南高校 訪問・交流（大阪府）



12月15日 四天王寺 見学（大阪府）



12月15日 大阪市立阿倍野防災センター 視察（大阪府）



12月16日 大阪城 見学（大阪府）



12月16日 大阪ガス ガス科学館 視察
（大阪府）



12月16日 歓送報告会 賀東亮 団長の挨拶
（大阪府）

4 中国高校生の感想（抜粋）

○ 今回の訪問で、私は日本人の日常生活について理解を深めることができました。景色よりも、品物よりも、さまざまな高級レストランでの食事よりも、私は日本人が好きだ。何故なら、彼等は素朴で、親切で、私にとっても良くしてくれたから。

兵庫県立加古川西高等学校での交流が、一番印象に残っている。私を迎えてくれたのは、私と同じ年で、誕生日が私より13日だけ遅い女の子だった。あの日、彼女が私の名前のプレートを持っているのを見つけて、私はすぐに彼女の所へ行った。初め彼女は、私よりも緊張していて、私の話が理解できない様子だったが、だんだんと私の存在に慣れていった。交流を通じて私たちは自然に友達になった。彼女のことをとても大切に思う。できることなら、彼女の生活圏に入って、ずっと一緒にいたいほどだ。

彼女の家で、私は彼女のお兄さんに会った。とても優しいお兄さんだった。お父さんは出張中だったが、私が来たからと、ビデオチャットで私と話してくれた。そして、お母さんは、私にとっても良くしてくれた。彼等のことを本当に大切に思うから、私のことをもっと知ってほしくて、私も自分の国についてたくさん話した。私のためにいろいろありがとう。とても嬉しかったし、とても楽しかった。

もし十に一つのチャンスがあって、もう一度この国に来られたら、私は必ず彼等に会いに行く。信じていて欲しい。人の感情はどんな障害にも負けない！と。本当に楽しかった。

○ 今回手配してもらったたくさんの活動の中で、一番記憶に残っているのは、ホームステイだ。私だけではなく、多くの学生が同じ気持ちだと思う。実は、私は内向的で、人と交流することがあまり好きではないので、日本の学生の家に行く機会があると知った時は、心配でとても悩んだ。でも実際には、私が心配していたほどではなかった。ホストファミリーは、とても親切にしてくれた。それは決して行き過ぎたものではなく、心から私を歓迎してくれている親切さだった。「どんな食べ物が好き？」「何か好きな物はある？」といった、普通に親が子に尋ねるような質問をしてくれて、私は彼等の家族の一員になったような気がした。彼等は、私のたどたどしい日本語と英語を混ぜた受け答えを気にする様子もなく、辛抱強く私にいろいろ教えてくれた。私の心は自然と開かれ、彼等との交流に夢中になった。言葉の問題はあったが、お互いに相手を理解しようと努力した。とても楽しい時間だった。

お母さんは、料理上手で、とても温かくておおらかな人。

お父さんは、博識で温和な人。

ホスト学生は、親切で明るい可愛い子。すぐに仲良くなった。今もネットで連絡を取っている。

弟は、ちょっと無口だったが、別れる時、寒い中ずっと外に立って見送ってくれた。

私は彼等が大好きだ。できるならもう一度日本に来て、また彼等に会いたい。

○①環境

日本に来る前に、日本の道路はとても清潔で、車はまるで洗車したてのようだと聞いていた。実際に来て見て、全くその通りだと思う。ある時、道で偶然青い車を見かけた。積まれていた掃除道具を目にしなれば、それがゴミ収集車だとは分からなかったほどだ！もっと驚いたことに、車の窓ガラスの内側には、たくさんの可愛らしい人形が並べられていた！通りには踏むのをためらうような金色の銀杏の落ち葉だけが敷き詰められ、アスファルトの道路に横断歩道の白線がくっきりと浮かび上がっていた。

②日本の人々の温かさ

ホームステイの時、初めは日本人同士の様にはいかなかったが、みんなの笑顔の中にいるうちに、だんだんと温かさに包まれているのを感じることができた。兵庫県立小野高等学校を訪問した時には、

一緒に小さなストラップも作った。日本の学生が手伝ってくれなければ、私は完成させられなかった。大阪府立門真なみはや高等学校では、私たちのために歓迎会も開いてくれた。日本の学生と一緒に昼ご飯を食べ、ゲームや折り紙、剣玉、竹とんぼ等で遊んだ。とても面白かった。午後の一対一の交流で、私たちは日本の学生の学校生活をより深く知ることができた。学校を離れる時には、彼等は校門の所に2列に並んで、手を振って見送ってくれた。

③サービス態度

サービス業は日本の最も発達した業界だ。買い物の時、お店の店員は、中国語の製品説明書を見せてくれて、笑顔で「ありがとうございました」と言ってくれた。そして買った物を一つ一つ綺麗にラッピングしてくれた。毎回ホテルに到着する度に、スタッフが笑顔で挨拶をして迎えてくれた。何を言っているのかは分からなかったが、私たちがバスから荷物を下ろすのも手伝ってくれた。

私たちが日本で見聞きしたことは、決してこの1枚の紙に書き切れるものではない。帰国したら、私は家族や友人、クラスメートに日本で得たことを伝え、彼等にも日本に行ってみることを勧めたい。

○ 今回の訪問で、私は、日本が既にただひたすら工業の発展と経済の利益を追求する段階を抜け出し、人と自然の調和を目指す段階に入っているのを感じた。清潔なガラスと車、これは中国の都市がどこも成し得ていないことだ。これは歴史の発展においては避けられないことだが、私たちは工業社会の急速な発展が環境を大きく破壊していることに既に気付いていながら、誰もどうすることもできないのだ。

日本は未来を見据えているから、教育に特に力を入れている。日本に暮らす子供は幸せだ。彼等は日本社会全体に守られ、その恩恵を受けているから。同時にプレッシャーも大きいはずだ。大きな権利を手に入れるには、大きな責任を負わなくてはならないから。成長したら、彼等を待っているのは、日本の発展を担っていく使命だ。その中で得る物、失う物、さまざまな味を自分で味わうのだ。

いつかもし日本に住むとしたら、私は絶対に農村に住みたい。澄み切った青空、きれいな空気、それぞれに個性のある小さな家。日本の農村はとても発達していて、中国の一部の遅れた貧しい農村とは比べ物にならない。この点は中国政府の熟考に値する。

細かい事柄では、やはり日本のトイレを挙げないわけにはいかない。——全自動トイレだ。座ると暖かく、水で洗浄ができて、音楽まで聞ける。水に溶けるトイレトペーパー、鏡には発熱板が設置されていて、湯気で曇ることがない。…すべてが「人に優しく、細部まで気を配る」という考え方を表している。

日本で得たことをただ書いてきたが、今回の交流訪問は確かに価値のあるものだった。

○ 私たちがこれまで思い描いていた日本と、実際の日本は違っていた。

実際の日本は、秩序正しい緻密な国だった。そして、日本人は、どんな事態に直面しても礼をもって対応し、いつも笑顔で絶やさず、穏やかで礼儀正しい民族だった。

エレベーターのドアを開けて待っていてあげたら、お礼が返ってくるなんて、想像もつかなかった。目が合ったら、真っ先に微笑みかけてくれるなんて、想像もつかなかった。子供には小さい時から「絶対に人に迷惑をかけてはいけない！」と教えているなんて、想像もつかなかった。

これが日本なのだ。永遠に想像のつかない民族。

中国は以前の大唐ではないし、日本は以前の東瀛ではない。

中国が世界に存在感を示そうとするなら、世界に目を向け、謙虚に学ばなければならない。

中日の友好が末永く続き、交流が途絶えないよう望む。

○ 今回の訪日期间中、一番印象深かったのは、日本人の資質の高さだ。街でも、ホテルでも、レストランでも、出会う従業員、行き交う人々、ゲストの誰もが、品が良く、互いに会釈し合っていた。毎回のバスの乗り降りの際にも、ドライバーにいつも挨拶をし、敬意を表していた。この点に私はとても触発された。他にも日本に学ぶべき点は、物事を行う際の、細やかな心配りと思いやりだ。日本は、インフラ整備も、証明書の写真照合のように完璧だ。各種日用品はすべてコンビニで買って、とても便利だ。

帰国したら、クラスメートに伝えたい大切なことがもう一つある。可愛くて活発な日本の学生のことだ。私のホスト学生は、福岡県立玄海高等学校の、ある可愛い女子学生だった。彼女は中国語が話せなかったが、私たちは英語で簡単なやり取りができたし、ダウンロードした翻訳ソフトもあったので、意思の疎通はまあまあ順調だった。私が一番感動したのは、中国と日本ではメッセージングソフトが違うため、彼女が私のためだけに We Chat をダウンロードしてくれて、お互いに友達登録をしたことだ。記憶に新しい印象深い出来事だ。

最後に、私たちのために今回の行き届いた手配をしてくれた日本の皆さんに感謝したい。おかげで日本と日本の人々について理解を深めることができた。中国と日本が今後も互いに理解し合い、交流を深め、互いを手本とし、末永く友好関係を続けていくことを望む。

○ 私たちは大阪ガス ガス科学館を見学した。説明を通じて私は、この企業は設備が最新で、環境保護理念もしっかりしていると思った。最新技術を利用することで、発電効率を高め、天然ガスの製造過程でできる副産物や廃熱も上手く利用していた。環境と相容れた状況の下で、どのようにして最大の利益を上げるかは、中国の各企業も学ぶべきだ。設備だけではなく、この企業は緑化のレベルも高かった。道路の両側には、小中学生が協力して育てたさまざまな種類の木々が植えられ、緑であふれていた。企業が学校に公益活動の場を提供しているのだ。学生は社会経験を積むことができるし、企業は環境を美化することができて、一挙両得だ。

他にも、日本の道路はとても清潔で、人々は交通ルールを守り、公共施設は近代的だ。これらはすべて中国が学ぶべき所だ。もちろん中日の文化にはそれぞれの特徴があり、互いに交流してこそ共に発展できる。中日の友好が末永く続くことを望む。

○ 一番印象に残ったこと：ホストファミリーとの交流。

- ① ホスト学生の英語スピーチ大会のために一緒に準備をしたこと。テーマが相互交流だったので、学生（個人）の視野を広げるために、日本がどのような教育を行っているかを、実感することができた。
- ② 食生活：日本式の鍋料理と家庭の温かさを体験した。キーワードは満足感と清潔感だ。
- ③ 科学技術の浸透：立体車庫、自動給湯システム、照明と空調のリモートコントロール。
- ④ 文化体験：クリスマスの飾り付け、布団、家具の風格等。

伝えたいこと：

- ① 「郷に入っては郷に従え」の必要性：どんな場所に行っても、長い歴史が育んできたその土地の風俗や文化を受け入れて、試してみるべきだ。
- ② 国家と個人の立体性：国はそれぞれみな立体であり、個人も同様に立体である。

○ 一番印象深かったこと：

- ① 音楽室での授業の時、私たちが入口に乱雑に脱ぎ散らかした靴を、日本の学生が入口の脇にきれいに並べてくれたこと。
- ② 毎回ホテルやその他どんな場所を離れる時でも、私たちをもてなしてくれた日本人が必ずバスの脇に立って、手を振って見送ってくれたこと。その礼儀正しさを、みんな口々に賞賛していた。

伝えたいこと：

- ① 日本の都市はとても清潔である。
- ② 日本人はとても礼儀正しい。
- ③ 日本の工場はとても先進的で、オートメーション化が進んでいる。
- ④ 日本人の考え方はとても進歩的である。
- ⑤ 日本の古い建築物の保存状態は素晴らしい。

○ 日本の首都東京は、高度に近代化された都市だった。多くの人口を抱え、ビルが立ち並び、すごく混雑しているのに、整然と秩序が保たれている。交通網が四方八方に延び、建物のすぐ脇を通っているのに、緑化もまた素晴らしい——松や銀杏、桜等の木が至る所に見られる。空気はきれいで、水も透き通り、街はとても清潔だ。この点は中国の大都市も学ぶべきだ。

大分県は、自然がいっぱいで、温泉がたくさんあり、山と川に恵まれ、白壁に斜めの屋根の住宅がたくさん並んでいた。文化の息吹に満ち、地方の文化が生活の中に息づいていた。人々は、素朴で真面目で親切だった。もし中国の農村と比べるとしたら、ここは遅れてもいないし、貧しくもない。生み出せる利益も少なくない。快適な居住環境があり、生活を楽しむことができる。

オムロン太陽株式会社では、日本社会の、障がいを持つ人に対する関心と配慮、そして社会の公平公正さに対する追求と維持について、知ることができた。この点では中国も負けていない。大阪ガス ガス科学館では、効率が良く省エネで、利益を生みつつ環境保護にも役立つ、天然ガスの産業リンケージを見ることができた。中国の各種新エネルギーの利用も、現在鳴り物入りで発展中だ。

日本式の温泉、食事、竹工芸品等には、日本の豊かな文化を感じた。日本の文化と中国の文化を比べると、似ている所と似ていない所がある。これは主に地域の環境に関係している。中国には「食が一番大事」という言葉がある。日本の食文化は独特で、私たちにとても新鮮だった。日本の人々にも、チャンスがあればぜひ中国に来て、中国のおいしい物を食べ、中日の文化の違いを感じ、相互理解を深めて欲しいと思う。

○ 日本での9日間で、中国では9カ月かけても学ぶことができないかもしれない多くのことを学んだ。同時に、中日の違いがどこにあるのかも分かった。

まず、驚いたのは日本人の礼儀正しさだ。ホテルでは、スタッフは会うたびに会釈をしてくれたし、出発の際には並んで見送ってくれた。掃除のおばさんまでが笑顔で「こんにちは」と言ってくれた。いったいどんな教育をすれば、一民族の礼節観をここまで深く浸透させられるのだろうか。学校では、学生は教師に会うたびに、知っている、知らないにかかわらず、尊敬をこめてお辞儀をし、大きな声で挨拶をしていた。日本人の最も典型的な仕草が腰を曲げるお辞儀だが、彼等は、腰は曲げていたが、頭は上げていた。

次に、学校訪問とホームステイだ。日本の学生の親切さについてはここでは語らないが、日本の授業

もとても印象的だった。体育の授業での持久走、2.1km。彼等は毎回走っているのに、私が走り切ると、体育の教師は携帯で「よく頑張った」「素晴らしい」と打って見せてくれた。私はとても感動した。この様な人々、この様な教師、この様な学生がいるのだから、日本の経済文化の発展が不調だからと言って悩むことなどない。この様な資質教育や、人と人との関係（上下関係のある間柄でも、教師と学生の間でも）の平等と誠実さこそ、中国は学ぶべきだ。一人一人が自分から始めれば、まだ改善の余地があるかもしれない。

そしてもちろん、私が一番敬服させられたのは、日本人が自分の足りない部分を潔く認め、他人に学ぶ勇氣を持っていることだ。ホストファミリーのお父さんははっきりとこう予言した。「もうすぐ、中国が世界のナンバーワンになるだろう」と。誇張があるのかもしれないが、私は信じる。今回のような学習と交流は、中国の未来の発展を促すだけでなく、中日の友好関係の発展にも繋がるだろう。

○ 今回の訪問で、一番印象的だったことは、自分の日本人に対する見方が変わったことだ。これまで思い描いていた無関心無感情から親切で誠実へ、その上とても礼儀正しく、秩序を保ち、資質が高く、愛国心にあふれている。彼等の伝統文化や民族精神に敬服させられた。これも、彼等の民族がたった40年という短い間に大きく発展した原因だろう。帰国したら、周りの人々の日本に対する見方を、頑張っ変えたいと思う。そして彼等にも、身をもって体験することを勧めたい。チャンスがあれば、是非私もまた日本に来て、この偉大な民族と触れ合いたい。